

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 1 月 17 日

事業所名 ハッピーテラス俊徳道教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			・物やスタッフの配置を工夫して適切なスペースが取れるようにしている。
	2	職員の配置数は適切である	100%			・児童数に応じ人員が足りていない場合の依頼ができています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80%	20%		・トイレでは幼児向けに適切な高さの踏み台を準備。 ・玄関には段差のないようにしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	60%	40%		・送迎のタイミングなど保護者と接する機会に意向等を確認している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	60%	40%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		・本社よりの監査が年に1回ある。 ・会社内の内部監査を毎年実施している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			・2週間に1回研修を実施。また毎日先日の振り返りや日報で児童のアセスメントについてやトレーニングの組み方、制度について学んだり共有している。 ・月に2回実施している
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			・3か月ごとに見直しをしている。 ・3か月ごとに支援計画の見直しを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	60%	40%		・生活の変化や子供たちに合わせた課題の共有を行い支援している

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			・トレーニング確認の際にどのように動くか支援内容の共有を行っている。イメージトレーニングを行い動きや想定でわからない点はほかのスタッフへ相談している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			・当日気になった点や気づいた点は日報で共有し翌日にはトレーニングの組み立てやメイン、サブの動きについても振り返り改善点を共有する。 ・午前に前日の振り返りをしている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			・クレドを意識し具体的に正しく支援記録を取っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			・定期モニタリングを実施しており、子どもの状況によって必要と判断した場合は、モニタリング以外にも面談や電話相談をおこなっている。 ・3か月に1回実施している
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	60%	40%		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			・利用児童より年間や月間行事をいただいて把握をしたり、送迎時に学校の様子をお伺いし何かあった場合はスタッフ間で共有して対応している。 ・学校の予定表をいただき掲示し、その都度連絡を取れるようにしている。 ・学校ごとの行事予定表などを掲示し、都度連絡をとれるようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	80%	20%		・医療的ケアが必要な児童はいないため
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%		・通所中の保育園へ見学に行ったり、先生方に来ていただき情報共有したりしている。 ・幼稚園、保育園の訪問をおこなっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%			・学校卒業前から卒業後の方向性を考え、そこへ向けた行動ができるように目標設定や支援を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		・各担当で連携し、情報共有を行い方向性を合わせて支援しているが、他専門機関へ研修に入っていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	40%	40%		・兄弟等参加できるイベントをおこなっている（今年度はコロナのためしていない） ・兄弟参加など、できる範囲での工夫をしている
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	80%	20%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			・子供の送迎時に保護者の方と当日の様子やご家庭での様子を共有し、課題の方針についても話もおこなっている。 ・定期的な相談の場を設け支援計画に反映している。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%		・モニタリングなどの面談時に子供への関わり方についての支援やコロナが落ち着いた今、保護者向けのセミナーの企画もやっている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			・契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			・保護者から何に困っているのか、悩みがあるのかを少しの引掛かりから聞き出し対応している。 ・定期以外にも随時おこなっている。 ・定期的な相談に加え必要に応じて相談を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	40%		・保護者会などは実施していないが、トラブルや困ったことがあった際は、保護者間でやり取りが円滑にできるように間に入ったり、調整を行っている。 ・今年度はコロナの為、開催していないが通常は年に2～3回行っている。 ・年3回実施(定例)(コロナの影響で本年度はまだ実施していない)
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			・子供や保護者の方から頂いた苦情は、すぐに上司に報告、共有しその後の対応を検討し全員統一した対応ができるようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			・毎月の活動予定を利用者様に配布し、SNSを利用し、日々のトレーニングの様子がわかるようにしている。
	35	個人情報に十分注意している	100%			・個人情報の取り扱いについて説明、同意を得て適切な管理をしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%		・基本的に口答だけでなく、文面で確認できるように情報伝達を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	20%		・地域の利用者以外の保護者お方にも向けて相談会を実施している。 ・セミナー等広く知っていただく為、案内をしている(今年度はコロナの為にしていない) ・兄弟の参加などできる範囲で工夫をしている
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	20%		・コロナ感染症対策として、教室での統一した対応を文書にし、保護者様、スタッフへ配布し周知徹底した。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%		・毎月1回トレーニングの中に避難訓練を取り入れており、具体的備えや避難時の対応を行っている。 ・月に1回子供たちと一緒にこなっている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	40%	20%		・虐待防止の研修は行っていないが、児童への関わり方について適切な関わりとはどのようなものか、日々の関わりから学んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40%	20%		・基本的に身体拘束の必要のない児童を対象としている為、サービス計画に含むことはないが、事前の契約時には説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%		・契約時や飲食を伴うイベント時にはアレルギーの有無の確認を行っているが、医師の指示書に基づく対応が必要な児童は現在在籍していない。 ・保護者からの聞き取りで行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%		・ヒヤリハットの報告はファイルにまとめており、いつでも見れるようにしてある。